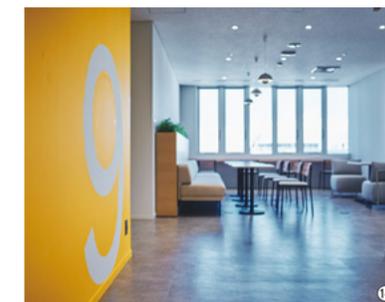
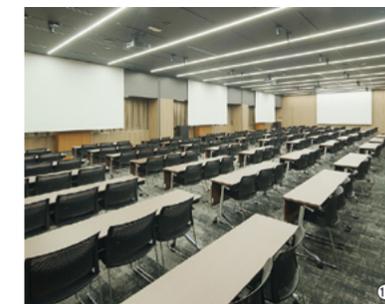


学校法人静岡理科大学グループ
静岡駅前キャンパス
 静岡デザイン専門学校

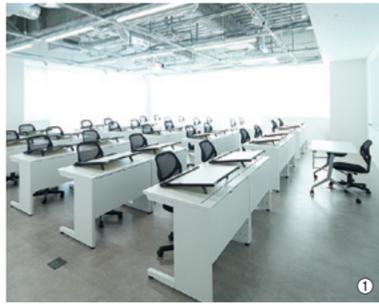


新世紀のキャンパス



- ① JR静岡駅北口に完成した複合型ビル。駅から徒歩3分、地下道でつながり、新しい人流が生まれている。
- ② キャンパス南側には直下に静岡駅、東側からは富士山が望める。
- ③ 地域協働センター内アクティブラーニングルーム。
- ④ 大学サテライトフロアは、各室から袋井のメインキャンパスと大画面越しにつながっている。
- ⑤ 大学情報学部4研究室の学生が集うコモラボ。
- ⑥ 地域協働センター内セミナールーム。

- ⑦～⑨各室「ラボ」「スタジオ」「ストア」など、機能ごとの名称。
- ⑩ホール横の「パーク」は公園のイメージ。
- ⑪200人収容のホールは3分割が可能。
- ⑫全フロア、パーテーションは基本ガラス張り。
- ⑬～⑮アクセントになるフロアカラーは土ベースのソイルペイント仕上げ。



- ①製図の基礎を学ぶスタジオ。角部屋は特に明るく開放的。
- ②撮影スタジオには写真ブースの他、バーチャルプロダクションの設備を導入予定。
- ③黄色を基調にしたMacスタジオ。
- ④ヘアサロンにつながる受付カウンター。
- ⑤技術力とサービス力を磨くヘアサロン。
- ⑥フルフラットのシャンプー台、教員の手元が見えるモニター付き。

- ⑦服飾造形を基礎から学ぶファッションスタジオ。
- ⑧接客販売やディスプレイを学ぶアパレルストア。
- ⑨木工用工具などが並ぶ工作スタジオ。
- ⑩開放的な空間はアンティーク、互いの学びへの理解を促進する場でもある。
- ⑪窓の外には商店街を見渡せ、街との一体感が感じられる。
- ⑫地下駐輪場。学生用とビル来訪者用が併設されている。

静岡駅前に学校法人のランドマークがオープン

学校法人静岡理科大学は静岡県内に大学1校、中学2校、高校2校、専門学校5校、日本語学校2校の計12校、多様な学校種を有する学校法人である。そのランドマークとして、2024年4月JR静岡駅から徒歩3分、駅からの地下道と直結する新築ビル「M20」内に新たな拠点を構え、法人本部や大学情報学部サテライト研究室、地域協働センターを設置。加えて、静岡デザイン専門学校を完全移転した。駅前再開発計画による当ビルは、地下1階、地上15階建て。その中、4階～13階が本法人フロア、その他

は商業フロアやオフィスフロアで構成される複合型ビルである。

キャンパス内は「街」のような空間

5階～10階に移転した静岡デザイン専門学校は、1927年に洋裁学校として創立し、2027年には100年目を迎える静岡県最大級のデザイン系総合学校。設置学科は、デザイン・ファッション・ビューティー・フラワー系既存7学科に加え、移転を機に、美容師国家資格に対応した「美容科」「ヘアメイク科」と、今後ますます需要の広がる「CGデザイン科」の3学科を新設した。

設計コンセプトは「ストリート」。廊下を道路に、各教室をアパレルストアや

美容院、フラワーショップ等の店舗に見立て設計・デザインされている。設備も可能な限り、実際の店舗やオフィスに近い仕様とし、より実践的な授業を展開している。

また、200名収容のホールでは、講演会やプレゼンテーションのほか、ファッションショーの開催も可能。撮影スタジオでは、写真ブースのほか、最新鋭のバーチャルプロダクションの導入も決定している。学生の憩いのスペースは、各フロアにあるパーク（公園）。建築・インテリアを学ぶ学生フロアはデザイナーズチェアを揃える等、フロアごと学科の個性を出している。地下には駐輪場を完備。館内セキュリティーは、学生

証及び静脈認証での解錠を用いている。1階のエントランス横にはギャラリーも設置し、街行く方々に向け学生作品の展示会も開催できる。

学生の通学エリアは静岡県内広域に及ぶが、駅前への移転により利便性がさらにアップした。在学生からの評判も良く、入学志願者も増加している。旧校舎では部屋が分かれていた教員・事務職員・募集担当・キャリア支援担当が1フロアでフリーアドレスとなり、教職員間のコミュニケーションも図りやすくなった。

複合型キャンパスの強みを活かして

これまで本法人では、1校ごとが独立

して校舎を運営していたが、今回の静岡デザイン専門学校のように、同ビル内に、静岡理科大学情報学部サテライト研究室や、地域や企業との連携・社会人教育の窓口となる地域協働センター等があることで、様々な人々が往来する空間となった。それによって、相互に施設設備を共有したり、事業を連携したりすることが容易となり、学校法人の擁する人材と教育コンテンツを、地域社会のニーズにマッチングしやすくなった。特にDXとデザインに関するコラボレーションと施設利用のお問い合わせが増えている。地域企業や商業者、行政からの本法人への期待も大きく、見学者が訪れることも多い。既に、経営者や専門業

界向け・キッズ向けの講座や講演会も始まっている。

また、学生・教職員・非常勤講師を含めると約1000人が同ビルに通うようになり、駅前の賑わい創出にも貢献している。ビルの敷地内に地下から地上への連絡通路（エスカレーター・階段）があり、秋には商業施設もオープンするため、今後ますます人の流れが増えていくであろう。

これからも教育を軸に、駅前の立地を活かし、人が交流し街を元気にしていく活動が広がっていくよう、産官学連携による地域貢献を推し進めていきたい。（文/学校法人静岡理科大学 法人本部広報部部長 久保田香里）